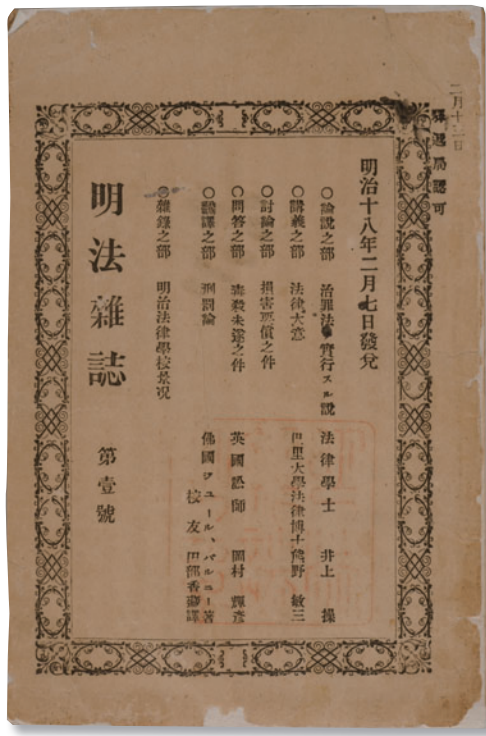


学内紙誌類の歴史

明治大学史資料センター

本誌『明治』（年4回刊）をはじめ、機関紙『明治大学広報』（月1回刊）、学生向け情報誌の『M-STYLE』（月1回刊）など、明治大学では数多くの学内紙誌類を刊行しています。今回は明治大学創立以来の学内紙誌類を紹介し、

（明治大学史資料センター・村松玄太）

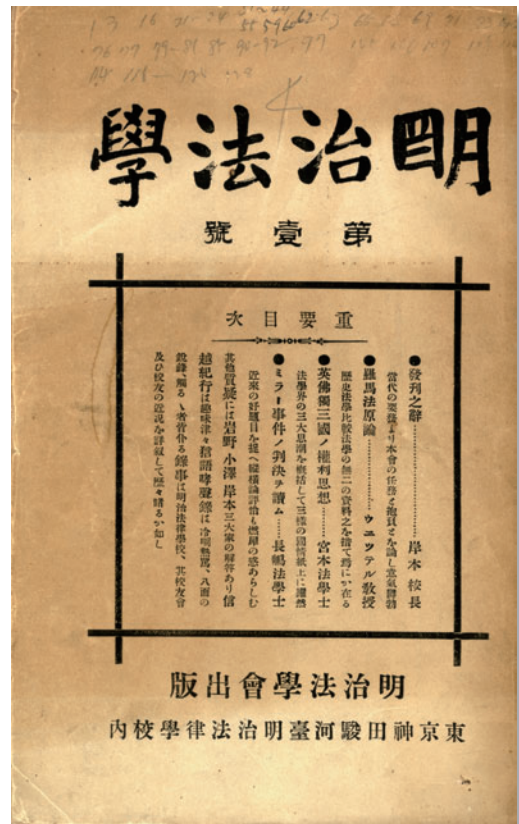


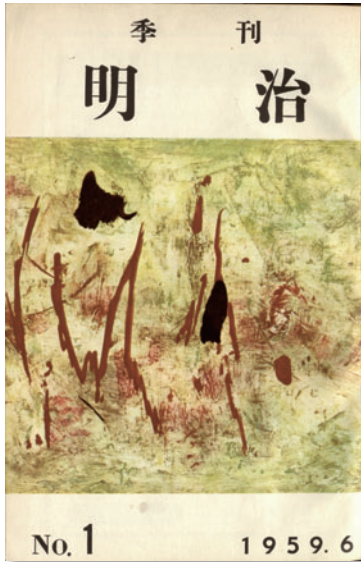
『明法雑誌』創刊号
(1885・明治18)

明治大学前身の明治法律学校で草創期に出された機関誌です。同誌は地方で法律・経済を学ぶ者の便も考えた講義録や論文、校友の投書・学校に関する雑録記事で構成されています。

『明治法学』創刊号
(1899・明治32)

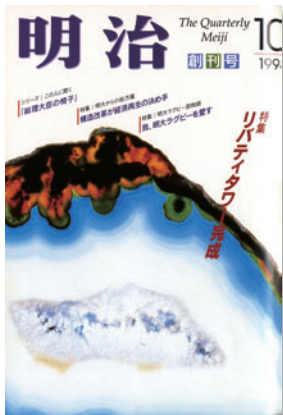
『明法雑誌』は幾度かの誌名変更を経て、『明治法学』へと発展しました。創立者の岸本辰雄先生は、『明治法学』創刊号の「発刊の辞」において、法律思想の普及のみならず、校友たちと明治法律学校とを「連結スル」役割も果たすものとして同誌を位置付けています。





『季刊 明治』創刊号
(1959・昭和34年)

第二次大戦後、各大学で学外者や父母に向けたPR誌が続々と創刊されます。同誌もその一つで、明治大学の学術や教育内容を広く知らせることを目的にしたものです。



『明治』創刊号
(1998・平成10)

本誌創刊号の表紙です。現在のように、本学著名校友のイラストが表紙を飾るようになるのは、第26号(2005年4月発行)からです。最初の表紙イラストは高田繁氏(当時北海道日本ハムゼネラルマネージャー)でした。



「駿台新報」第3号(1923・大正12)

大学令に基づく大学となったこの時期、論文は各学部発行の学術誌に、学内の様子を伝える彙報・雑録記事の掲載は学内新聞「駿台新報」へと分化していきました。



「明治大学広報」創刊号(1972・昭和47)

広く学内外に大学経営の計画・方針等を明確に打ち出すことを目指して発行された広報紙です。